令和３年度 文学部英文学科 学校推薦型選抜（一般）講評

令和３年度から、文学部英文学科の学校推薦型選抜入試は、日本の英語教育の変化に連動させて、その出題形式を変更した。問題は２部構成で、英語の読解力と英語による表現力を測り、それぞれにおいて受験者の意見や考えなどをまとめさせる出題となった。

Ⅰ

出題のねらい

日本人のコミュニケーション形態について書かれた英文をどれくらい理解できるかについてみた。問１の問題は英語であるが日本語で解答してもらうことにより、英語を本文から抜き書きするのではなく、内容をきちんと理解しているかどうかを判定する問題である。問１（１）は沈黙がなぜ日本でよく起こるのか、（２）は何が異文化コミュニケーションの障害となるかについて問う問題である。問２では、本文の内容を理解した上で、自分の体験を交えて沈黙の利点と問題点を論じられるかという、読解力、表現力、論理的思考力を測っている。

講評

問１（１）

おおよその意味を把握していても、本文の内容に即して正確かつ適切に書けていない解答が見受けられた。沈黙という単語から類推できることや見聞したことだけを書いている解答も散見された。

問１（２）

最終パラグラフが“Judging from the above,～”ではじまり、文章全体のまとめ（結論）となっていることに注目し、このパラグラフの内容を中心にまとめるとよい。日本における沈黙が持つ意味、個人的な質問、時の概念など個別の問題について論じた答案が多く見られたが、これらは文章全体の中では具体例であることに注意したい。

問 2

「話し合いの場で沈黙によって、物事が円滑に進むのが利点、意見を出さないことで後から誤解や問題が生じるのが問題点、だからバランスよく沈黙を使い分けるべきだ」として、クラスや部活動、家族内での具体例を挙げる、という答案が多かった。日本文化における武道や茶道での沈黙はよいが、グローバル社会で意見を言わず沈黙するのは問題という議論は「沈黙」の論点がずれるので、減点の対象とした。

Ⅱ

出題のねらい

これからカナダでホームステイをするホストファミリーから届いた電子メールに英語で返事を書くという場面設定を行ったライティングの問題である。“What do you like to do in your free time?”という問いかけに 80 語～100 語の英語で返事を書くことが求められて

いるので、余暇にすることをいくつも羅列するのではなく、いくつかに絞ってそれらについて具体的に記述し、「つながりとまとまりのある文章」を書くことが肝要である。

講評

The question was very good from one perspective: it inspired some interesting responses and pushed the students to consider an appropriate response in which they project themselves in a foreign environment. Also, it was a good test of using polite written forms. The question was about their interests, while nearly all of the students related their interests to a projected trip to a foreign country. As a result, it seemed inappropriate to be too rigid regarding what constituted a reasonable answer, and the answer that discussed activities in the foreign country was deemed acceptable. Given this, there was no problem in assessing the students’ response.